



第6回 あいち海上の森フォーラム 2022

里山シンポジウム



SDGs の実現を
目指します。

令和4年11月13日(日) 13:15~16:40 ウィンクあいち 11 階1103会議室

第1部 「海上の森」研究報告

13:15~14:45

① ヒノキ林に生息する土壤動物の群集構造にルートマットが果たす役割

■名古屋大学大学院 生命農学研究科

林 亮太氏

海上の森・砂礫層および花崗岩地域の各4区画・4地点から計32か所を調査地とした。この調査地は昨年度秋山哲矢氏が選定した調査地で、その調査でヒノキのルートマット厚が場所によって異なることが明らかにされている。この32か所からルートマットおよびその下のA層土壌を直径10cmの円筒を用いて採取し、ルートマットおよびA層土壌を研究室に持ち帰り、ツルグレン法によって土壤動物を熱により追い出し、回収した土壤動物を分類・計数、試料中の根量や含水率などを環境データとして測定する。以上の結果から、ルートマットおよび腐植層の厚さが、土壤動物の種数や豊富さに関与するかを精査した。

② 異なる表層地質に生育するヒノキの地上部成長—花崗岩層と砂礫層—

■名古屋大学大学院 環境学研究科

秋山哲矢氏

海上の森の花崗岩および砂礫層地域に生育するヒノキ人工林を対象とし、複数のヒノキを伐倒し、ヒノキ個体から複数の幹円盤を採取し年輪解析を行うことで、ヒノキの樹齢・幹の年成長の履歴・成長速度の違いを明らかにした。この結果と、前年度に試料採取し分析済である土壌特性の結果を砂礫層・花崗岩と比較し、海上の森における地質の違いとヒノキ林の地上部成長および土壌特性の関係を考察した。

③ 湧水湿地における植物と環境の相互関係

■名古屋工業大学大学院 工学研究科

澤田大誠氏

湿地において間伐と有機物除去を行うことで、湿地の日照を確保し、地表面に流れる水を還元するとともに、富栄養化を抑制します。それによって、東海丘陵要素植物群を中心とした湿地性植物が、設置したコドラート内にどれだけ芽生えるのか経過観察を行っている。また、物理環境(pH、電気伝導度、溶存酸素、流速、強熱減量)を測定し、東海地方の湧水湿地の特徴である酸性、貧栄養の状態に近づくのかの調査を行いました。最後に全天空カメラを用いて開空度を算出します。これは、任意の地点から見た上空の写真を撮り、解析ソフトによって空とそれ以外の部分の比率を求め、光の当たり具合を数値化することで、間伐の効果を明らかにしました。

第2部 特別講演

14:50~15:50

テーマ『里山の予防医学：資源の循環的利用で健康に維持』

■神戸大学名誉教授・京都大学生存圏研究所 特任教授 黒田慶子氏



里山(二次林)は何百年も「伐って使って再生」という資源採取の場所でしたが、1950年代の燃料革命以降は放置による荒廃が進んでいます。近年の「ナラ枯れ」(伝染病)蔓延により、森林の持続には予防医学の観点と適度な資源利用が重要であるとわかりました。景観整備だけでは森林は持続しません。SDGsでは、輸入への全面依存ではなく、国内資源の利用による循環型社会に移行することが大事になります。そこで、里山広葉樹の木材流通を目指して資源情報のデジタルカタログ化を始めました。

専門は森林病理学・解剖学。樹木萎凋病の発病に関するミクロな研究の一方で、行政やNPOと森林の健康維持に取り組む。「森を守る」という上から目線に疑問を持つ。

第3部 質疑応答・意見交換

15:50~16:30

【コメンテーター】 あいち海上の森フォーラム実行委員会会長 マリ クリスティーヌ氏

【コーディネーター】 京都大学生存圏研究所 特任教授 川井秀一氏

【表彰】活動団体・写真

16:30~16:40

主催 あいち海上の森フォーラム実行委員会
Email kaisyoforum@yahoo.co.jp
URL <https://sites.google.com/kaisyoforum.com/kaisyoforum/>
後援 愛知県



会員募集中
どなたでもOK 会費年
2000円 氏名・連絡先
をお知らせください。